

(中間評価)

## 生命科学の新分野創造若手育成プログラム

(実施期間：平成 22～26 年度)

実施機関：大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構（総括責任者：北川 源四郎）

### プロジェクトの概要

生命科学の新分野創造のポテンシャルを持つ若手研究者を任期付准教授として6名（調整費3名、自主取組3名）採用し、国立遺伝学研究所新分野創造センターに独立研究室を置く。准教授毎にサポート委員会を置いて支援・助言を行い、機構・研究所の優れた研究環境を活用して研究に専念させ、切磋琢磨によりテニユアへの登用を推進する。本構想は、これまでの試行結果に基づき、優れた若手の集積効果を生むクリティカルマスの規模へ拡大するものであり、新分野創造の核となるチャレンジングな若手育成の場を築くことをめざす。機構・研究所が世界をリードするために有効な制度として位置づけ、5年経過後も若手育成の自主取組として継続する。

#### (1) 評価結果

総合評価	国際公募・選考・業績評価	人事養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人事養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	今後の進め方における取組
A	s	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

#### (2) 評価コメント

生命科学の新分野創造のポテンシャルを持つ若手研究者を採用し育成するという明確な目標の下、機関の自主的取組として行ってきたテニユアトラック制（以下「TT制」という。）に準じた独立研究員制度を発展させ、新分野創造センターに独立研究室を持つテニユアトラック若手研究者（以下「TT若手」という。）として優秀な6名（調整費3名、自主取組3名）を准教授として採用している。また、採用に当たっての選考審査の優れた工夫も、研究機関の仕組みとして評価できる。

TT若手の研究環境整備による育成体制も充実していることは評価できる。今後は、女性研究者及び外国籍研究者の採用を推進し、多様性への配慮も期待する。完全独立型によるTT若手育成によって、研究マネジメント力を増進させる効果を生み出しており、機関としての支援体制は評価できる。

なお、大学共同利用機関という研究機関でのTT制導入のモデルケースとなり、研究分野・手法が異なる機構内の他の研究所でのTT制導入に対する意識改革を促すことを期待する。

- **国際公募・選考・業績評価**：選考方法について研究分野の特性を踏まえた手法が採られていることは高く評価できる。今後は、公募のあり方について、機関での TT 制定着に向けた更なる検討及び工夫を期待する。
- **制度設計に基づく実施内容・実績**：TT 若手の活力を新分野創造に振り向ける育成システムは、優秀な人材の育成につながりつつあり、「新分野の創造」を求める機関の目標に合致した体制が構築されていることは評価できる。
- **制度設計に対するマネジメント**：機関の長のリーダーシップの下、TT 制を活用した戦略的な取組とその実践は評価できる。今後は、助教を含めた全体の人材養成システム構築の中で TT 制をどう活用するかについて、更なる検討を期待する。
- **今後の進め方における取組**：機構として TT 制導入の意欲も高く、機関としての人材養成マネジメントも充実していることは評価できる。今後は、定着に向けた資金計画などの展望を明確にし、継続性のある制度設計にすることを期待する。また、機構長のリーダーシップの下、機構内での他研究所への波及展開の具体化を期待する。